きいろいふうせん

すずき　ゆうり

「ぼくのふうせん、ふくらませてみよう。」

ふうせんをふくらましたら、あらら、

どこかへとんでいってしまいました。

ふうせんは、そらたかくとんでいって、

ぐんぐんとおいところにとんでいって、

ヒマワリばたけへとんでいきました。

ふうせんがおちようとしたら、

ヒマワリのつぼみにくっつきました。

それで、ふうせんは、ヒマワリの花になりました。

ふしぎですね。

あれ?そのヒマワリの花びらが、おちてしまいました。

でも、花びらがかたまって、タンポポの花になりました。

「あ、あそこにタンポポがさいている。」

といってきた男の子は、タンポポをつみました。

そのとき、雨がふってきました。

そのタンポポが花びらをおおきくふくらませ、くきはかさのもつぶぶんになりました。

やがて、雨がやみました。

空にはカラフルなにじ。

「わあ、きれいだなあ。」

いつのまにか、ただのきいろいふうせんになっていました。

「あれ、さっきのふうせんだ。」

「じゃあにわであそぼう。」

といって、男の子はあそびました。